テキサス州議会上院決議案 541 (仮邦訳)

2007年3月22日木曜日・第31日目

テキサス州オースティン

エステス上院議員より以下の決議案の提出があった。

テキサス州上院議会は、日本フルブライトメモリアル基金マスター・ティーチャー・プログラム及び同参加者であるカリスパーク市及び気仙沼市の生徒及び教員をよろこんで称える。

日本フルブライトメモリアル基金マスター・ティーチャー・プログラムは日本フルブライトメモリアル基金教員プログラムを発展させたものである。同教員プログラムは、第二次世界大戦後、故 J.ウィリアム・フルブライト連邦上院議員が設立したフルブライト奨学生プログラムによって数百人におよぶ日本人が教育の機会を得たことに対し、日本側が米国側に謝意を示すべく、10年前に日本政府によって設立されたものである。

本マスター・ティーチャー・プログラムは日本政府によって全額支給され、同交流事業によって、子供たちのために世界平和が促進されている。

日本の教員と学校が、米国の教員と学校との間にパートナー関係を結び、日本側教員が毎年春に2週間米国を訪問し、パートナー校及び地元コミュニティとの関係を深め、その後米国側教員が、夏に日本で6週間過ごしている。

プログラム期間中、生徒らは、共通の関心事項につき科学実験を行い、ビデオ会議を通じて実験結果や文化的経験を共有している。過去3年間、カリスパークと気仙沼の両関係校は、理科の実習として水質に焦点当てて取り組んできた。カリスパークの生徒は、トリニティ川の Elm Fork を研究し、気仙沼の生徒らは面瀬川を研究している。

カリスバーグ市内の学校が、この交流プログラム参加校として選ばれるのは、本年で3年連続であり、同参加校は、カリスバーグ高校、カリスバーグ中学校及びカリスバーグ小学校である。また、日本側参加校は、気仙沼市立面瀬小学校、気仙沼市立鹿折小学校、気仙沼市立面瀬中学校及び宮城県立気仙沼高校である。また、教育パートナーとして、ノーザン・セントラル・テキサス大学、テキサス・クリスチャン大学及び宮城教育大学である。

カリスバーグにて本件に關与している教員は、次の通りである。Donald Metzler, Danita Ortowski, Deana Melancon, Tom Demetrion, Carla Taylor, Tim Jones。気仙沼側關係教員は、次の通りである。畠山友一、横山清一、宮崎弘子、小松克志、三浦聡、加藤貴伸、澤内里佳。

本プログラムの教育パートナーは次の通りである。気仙沼市教育委員会・及川幸彦、宮城教育大学・目々澤紀子；ノーザン・セントラル・テキサス大学の Dr. Eddie Hadlock, Lisa Bellows, Sara Flusche、テキサス地域共同科学教育センターの Dr. Carol Fletcher 並びにテキサス・クリスチャン大学の Dr. Molly Weinburgh。

日本フルブライトメモリアル基金マスター・ティーチャー・プログラムは、日米両国の生徒及び教員に対し、相互の関心事項につき考えを共有し、他の諸文化にふれ、理解と協力を通じ、より良い世界を作るための重要な学習機会を創出しているところ、以上をもって、

(決議) テキサス州議会上院(第80回議会)はここに、日本フルブライトメモリアル基金マスター・ティーチャー・プログラム及び同参加者に対し、彼らの教育及び日米両国の理解促進の努力を称え、同時に日本政府に対し、同プログラムへの支援に感謝を示すこととし、更に、

(決議) テキサス州議会上院からの最高の敬意として、本件決議書の写しを作成することとする。

上院決議案 541 読了後、異議なしにて採択された。

(爾後、来賓紹介他)

(了)